

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

| 視点 | 4年間の目標 (令和2年度策定) | 1年間の目標 | 取組の内容 | | 校内評価 | | 学校関係者評価 (3月12日実施) | 総合評価 (3月22日実施) | |
|----------------------|---|--|---|---|---|---|--|---|--|
| | | | 具体的な方策 | 評価の観点 | 達成状況 | 課題・改善方策等 | | 成果と課題 | 改善方策等 |
| 1 教育課程 学習指導 | <p>①各教科・科目において、知識・技能及び思考力・判断力・表現力をバランスよく育て、予測困難な時代を生きぬく力を身に付けた人材を育成する。</p> <p>②教科横断的な学習及び持続可能な開発のための教育(ESD)を推進し、持続可能な社会の積極的な創り手を育成する。</p> | <p>①本校の最上位の目標の一つである「自ら考える力」を身に付けさせるため、発問の工夫や学習負荷のかけ方について改善する。</p> <p>②一人1台PCを効果的に活用した授業の研究とその情報共有を促進させると共に、情報機器活用に関するスキルアップを図る。</p> <p>③全学年で実施する8時40分からの朝学習については、計画的に実施することで教科を横断した学習を実践すると共に、生徒へ様々なメッセージを発信することで、生きる力の育成を目指す。</p> | <p>①生徒自身が思考し、説明や演習を行う時間を増やした授業実践を行い、生徒が主体的に学ぶ力の育成を図る。</p> <p>①「舞岡プロジェクト」を柱として3年間を通じた地域探究、個人探究、自己探究の見直しを立て、検証と改善により探究活動の充実を図る。</p> <p>②1・2年生の各科目においてパソコンを活用した授業実践を行い教職員と生徒のリテラシーを高める。</p> <p>③全学年において朝読書もしくは朝学習をおこなう。また、その効果や課題を検証し、始業前の時間の効果的な活用について検討する。</p> | <p>①生徒対象のアンケートにおいて、4段階評価(4が最高、1が最低)の平均値が3.0以上であったか。</p> <p>①「舞岡プロジェクト」を軸とした取組について、効果的に実施し検証することができたか。</p> <p>③始業前の時間の効果的な活用について、実施と検証を行うことができたか。</p> | <p>①ICT機器等の活用により、説明時間を短縮して生徒が思考し演習する時間の確保により生徒の主体的に学ぶ力の育成に努めた。12月に実施した授業アンケートにおける「思考力が高められたか」の質問に対する回答の平均値は約3.2であった。</p> <p>①「舞岡プロジェクト」を軸とした探究の取組について効果的な実施と検証ができた。</p> <p>②ICT環境の整備を行い、ロイロノートの研修や、授業見学を通して、教職員はICTリテラシーを高め、生徒はICTを活用することができた。</p> <p>③全学年において朝読書もしくは朝学習を行い、毎週の読書発表等で効果を確かめることができた。</p> | <p>①授業研究に積極的な教員は増加した。消極的な教員も一定数おろることが課題である。教科会等を活用し授業研究が身近なものとする取組みや授業見学の際に声を掛け合い、気軽に参加できる雰囲気づくりに努める。</p> <p>①1学年の地域探究・3学年の進路研究の実施時期や内容について、検討の必要がある。新年度の「舞岡プロジェクト」に改善策を反映させていきたい。</p> <p>②ロイロノートやGoogleの各サービスの具体的な使用事例をさらに共有し、多くの教員が授業でICTを利用できるようにしていきたい。</p> <p>③更に体系的な朝読書を全学年で継続実施する。</p> | <p>・年4回の校内授業見学は大変良い取り組みである。引き続き教科を超え多角的な視点での授業改善に期待する。</p> <p>・探究的な学びを通じた育成は、生徒の発表等の成果から社会の要請に応じた学びになっていると思われる。</p> <p>・探究活動や授業において、ICT機器を使用するなど積極的な活動が見られた。</p> <p>・朝読書は有意義な取り組みである。生徒に対して読書の効果があることさらに良い。読書を目的のツールではなく読書を楽しむ時間とすることに繋げてほしい。</p> <p>・スムーズにPCを活用できるように一人一台鍛冶の整備を引き続きお願いする。</p> | <p>①授業アンケートにおける「思考力が高められたか」の質問に対する回答の平均値は約3.2であったことから数値生徒が授業に満足しているという結果が出ている。</p> <p>①教員がICT機器等の活用により、説明時間を短縮して生徒が思考し演習する時間の確保により生徒の主体的に学ぶ力の育成を図った。</p> <p>②ICT環境の整備を行い、ロイロノートの研修や、授業見学を通して、教職員はICTリテラシーを高め、生徒はICTを活用することができた。</p> <p>③全学年において朝読書もしくは朝学習を行い、自学自習の習慣を意識させることが出来た。</p> | <p>①授業の工夫と一定程度の学習負荷をかけ引き続き「生徒が自分で考える」授業を目標とする。</p> <p>①教科会等を活用し授業研究が身近なものとする取組みや授業見学の際に声を掛け合い、気軽に参加できる日常的な授業研究に取り組んでいく。</p> <p>①探究活動を軸にした活動を3年間を通じて有効的なスケジュールで進められるよう協議検討を行う。</p> <p>②パソコンを活用した授業づくりの研修や授業見学など、更なる推進を図る。</p> <p>③朝読書について体系的な取り組みを推進する。</p> |
| 2 (幼児・児童・)生徒指導・支援 | <p>①生徒の規範意識を育み、基本的な生活習慣の定着を図り、健全な成長を促し、自己実現に向けた自律性・人間性の育成を目指す。</p> <p>②生徒会活動や部活動とおして、生徒が主体的に取り組める行事等の充実を図ると共に、将来へと続く人間力を身に付けた人材の育成を目指す。</p> | <p>①引き続き規範意識や生活習慣等についての指導を実践すると共に、18歳で成人となることへの自覚を促す。</p> <p>②生徒一人ひとりに気を配り些細な変化も察知し早急に情報共有を行う。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーや外部機関と連携を密にし、組織的な対応を図る。</p> <p>③新型コロナウイルス感染拡大防止の対策の緩和に伴い新たな日常生活のあり方を指導すると共に行事や式典等のより良い運営を考える。</p> | <p>①②定期的な登下校指導により登下校時のマナーや遅刻指導を行い、基本的な生活習慣の定着に向けた指導を行う。また、生徒の状況を把握し教育相談体制を組織し支援に向けた対応を図る。</p> <p>③体育祭や文化祭の実施時期や内容を県の指示に基づいて感染予防に徹底した取り組みにする。</p> <p>③部活動の活動に関する基本方針を県の指示のもとに感染拡大防止に徹底した形態を示す。</p> | <p>①基本的な生活習慣や社会人に必要なマナーの大切さを生徒に定着させることができたか。</p> <p>②教職員が情報を共有し、組織的に指導することができたか。</p> <p>③生徒会行事や活動内容で生徒が主体的に取り組むことができたかアンケート等で確認する。</p> <p>③部活動の活動に感染防止対策を踏まえた形式で行えたか。</p> | <p>①定期的に登下校指導を行いマナーや遅刻指導を行った。自転車乗車マナー、公共の場での過ごし方に対する情報提供があった。</p> <p>②情報提供については常に教職員で共有し共通理解を図った。</p> <p>③体育祭はコロナ感染予防を考慮し種目ごとの検討を行い、予備日の6/6に実施した。文化祭は感染症状況の改善傾向を考慮し調理室を使用した食品販売の活動を実施した。9/29に校内発表、9/30に一般公開を行った。9/30の後夜祭で打ち上げ花火を再開した。</p> <p>③部活動を行う上で、県の指針を踏まえ感染予防を配慮し実施方法を指示した。</p> | <p>①今後も定期的な登下校指導・HRでの指導を継続し、更に基本的な生活習慣(公共の場でのマナー)の定着を目指す。</p> <p>②教職員間の情報共有は確実に継続し、生徒の規範意識の向上を目指す。</p> <p>②SC、SSWとの連携を図り、生徒の変化を素早く察知する。</p> <p>③新たな内容で行った文化祭についての評価を、文化祭実行委員会を中心に行っている最中である。</p> <p>③これまでに進んでいた衛生管理を徹底した対策を盛り込んだ活動マニュアルの指針を示した。</p> | <p>・舞岡の生徒として自覚を持った生活態度や18歳成人としての自覚を促すことを意識した生活指導方針は引き続き行ってほしい。</p> <p>・登下校のマナーについて地域の連合会で問題提起されることがある。</p> <p>・SC、SSWの活用が活発であることは、組織的に生徒、保護者の支援を行っていること聞き、安心して学校生活を送れていると感じた。</p> | <p>①年間を通じた定期的な登下校指導が定着しており、地域の方々からの情報提供があった。今後も継続して行い基本的な生活習慣の定着を目指す。</p> <p>②生徒情報交換会を行い、共通理解を図った。</p> <p>③体育祭、文化祭とも依感染予防に配慮した計画を立てた。特に文化祭は衛生管理を徹底した。生徒主体とする活動が行えた。</p> | <p>①今後も定期的な登下校指導を継続し、地域と共存していることを生徒に認識させながらより一層の基本的な生活習慣の定着を目指す。</p> <p>②生徒、保護者からの相談について教育相談を中心にスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の外部機関と連携し組織的な対応を行っていく。</p> <p>③生徒主体とする学校行事をより多くの保護者に公開していく。</p> <p>③近隣住民への配慮を具体化し、職員で情報共有する。</p> |

| | | | | | | | | | | |
|---|--------------|---|--|---|---|--|--|--|--|---|
| 3 | 進路指導・支援 | ①「進学先の向こうにある社会」を具体的に意識し、自主的に職業、生き方、社会へのかかわり方について生徒の理解を深めさせ、生徒の希望する進路実現に向けたキャリア教育を推進する。 | ①到達度テスト等を通じて生徒の特長や課題を把握し、職員で情報共有し組織として対策を検討していく。 ②引き続き、進学先や就職先の指導に留まることなく、将来の自分がどうありたいかも含めたキャリアガバナンスを研究すると共に実践する。 ③生徒、保護者への丁寧な情報発信は継続する。 | ①到達度テストの結果を校内で共有し、ステイプリアの配信や宿題等で生徒の自宅学習時間の増加を図る。 ②各学年の面談時間を確保し、生徒と教員の情報共有の場を設ける。校内での行事・学習を通しキャリアサポートに反映させる。 ③学年ごとに、保護者への情報発信をきめ細かく行う。 | ①到達度テストの結果やステイプリアの配信時間と生徒の自宅学習時間の変化を見る。 ②面談時間の確保と学年のそれぞれの時期にあった適切な内容の面談が実施できたか。キャリアサポートの記録ができたか。 ③保護者への情報発信回数と内容は適切であったか。 | ①到達度テストの結果を校内で共有し、ステイプリアの配信や宿題等で生徒の自宅学習時間が増加した。 ②各学年の面談時間を確保し、生徒と教員の情報共有の場を設けた。学校行事や学習を通しキャリアサポートへの反映が浸透している。 ③保護者に対して学年ごとに、きめ細かな情報発信を行った。 | ①到達度テストの結果やステイプリアの配信時間と生徒の自宅学習時間を職員で共有し、生徒の学習に対する変化を確認する。 ②面談時間の確保と学年のそれぞれの時期にあった適切な内容の面談を実施していく。キャリアサポートの記録を担当・生徒で共有する。 ③保護者への情報発信回数と内容を検証する。 | ・保護者向けの「進路のてびき」を配付されると、進学等の最新の情報がわかり、保護者が子供と家庭で相談する際に大変役立つ。 ・新学習指導要領にある通り、思考力の育成が求められている。大学入試との連動や高校の授業についての対応が知りたい。 | ①到達度テストの結果やステイプリアの活用により学習時間の改善が見られた。 ②各学年の面談時間を確保し、進路について系統的な指導に努めた。 ②キャリア教育の視点を持って「社会にどのよう貢献するのか」を考えさせ指導を行った。 ③保護者に対して学年ごとに、きめ細かな情報発信を行った。 | ①外部の模擬試験を活用し更なる学習時間の定着を図る。 ②更に面談時間の充実と学年のそれぞれの時期にあった適切な内容の面談を実施していく。 ③入試の様態が大きく変わってきているため、保護者に「進路のてびき」を作成し配付する。 |
| 4 | 地域等との協働 | ①Web ページなど様々な広報媒体を使って、県民にわかりやすい情報提供をより一層推進する。 ②地域や保護者及び分教室との連携を更に深め、開かれた学校づくりの推進を図る。 | ①新型コロナウイルス感染症の動向を見極めつつ、保護者や地域との協働を検討し日常的な活動を具体化する ②分教室との連携をさらに深め「共にできること」については、積極的に取り組む。 ③ホームページ等の広報媒体の充実を図る。 | ①地域商店街とタケノコを通じた交流「マイタケプロジェクト」や1学年の「地域探究」における地元企業へのインタビューの活動を継続する。 ②感染症拡大防止を優先させながらも分教室との交流を活発化できる新たな企画や内容の充実ができたか。 ②Web ページ等様々な媒体を使用して本校の情報を発信し地域との繋がりの一助とする。 | ①地域との交流により一層の交流を促進できたか。 ②コロナ禍の現状を踏まえ、連携を深めることができたか。 ③適切な Web ページの作成と更新を行うことができたか。 | ①地域商店街とタケノコを通じた交流「マイタケプロジェクト」において夏の商店街の七夕などの取り組みや横浜 FC へ竹提供、戸塚メーと竹水鉄砲づくりイベントを共催し地域交流を促進した。 ②地域のふるさと舞岡花さかクラブと連携し花壇を軸に地域との交流が行われた。 ②感染症予防を配慮し分教室と交流事業を実施した。体育祭の参加、七夕竹の宴の参加と竹の設置と撤去作業、文化祭の展示・販売・アクション参加等を行った。 ②分教室との新たな交流事業はできる限りの範囲で実施した。 ③適切な Web ページの作成と更新を行った。部活動実績のトップページの表示やCM 発表などPRを工夫した。 | ①教員負担の軽減、より活発な生徒参加、組織的運営の確立が課題である。 ②分教室との新たな交流事業はできる限りの範囲で今後も充実を図っていく方針である。 ③より頻度の高い、魅力的な更新をめざしていきたい。 | ・「地域探究」における外部の意見を聞けるインタビューは学びを深めることに繋がるので大切にしていきたい。 ・コロナ禍を経て、特別活動である体育祭や文化祭等の体験や経験が学校教育に重要であると再認識した。 ・学校教育計画「4年間の目標」のように◎、○や数値データで示されると達成状況が分かりやすい。 ・ | ①地域商店街とタケノコを通じた交流「マイタケプロジェクト」において地域交流を促進した。 ②体育祭の参加、七夕竹の宴の参加と竹の設置と撤去作業、文化祭の展示・販売・アクション参加等、分教室と交流事業を実施した。 | ①「マイタケプロジェクト」などの交流とインタビュー結果を地域に発信するなど、更なる改善を図っていく。 ②分教室との交流事業は更なる充実を図っていく。 ③各担当者が意識し、より頻度の高い更新を目指す。 ③同窓会とも連携し卒業生も楽しめるホームページ作成と共に、多方面への情報発信を行いたい。 |
| 5 | 学校管理 学校運営 | ①安心で安全な学校をつくれるよう、学習環境の改善を推進する。（学校管理） ②教員の意識改革を促し、教員の働き方改革を推進する。（管理職） | ①事故不祥事防止については、全ての職員が強く心掛け不祥事ゼロを実践する。 ②施設等の安全管理は全員が意識して取り組む。 ③引き続き、働き方改革について、アイデアを出し合い可能なことは積極的に実践する。 | ①事故不祥事防止研修を通して、全職員が当事者意識を持ち、些細なことでも気づいた点を指摘し合うなど、主体的に行動できるよう意識啓発を行う。 ②校内の学習環境整備を推進する。普段の清掃活動を柱として、安心・安全のための環境美化活動への意識啓発を行う。 ③効率よく業務進行できるよう、協働を意識した業務推進を図る。 | ①職員が主体的に事故防止に向けた行動を取るなど、研修を通して意識の向上が図れたか。 ②校内の学習環境の改善がはかれたか。校内が清掃により清潔に保たれているか。 ③勤務時間を意識した業務を行うことができたか。 | ①不祥事防止研修や、人権に関する職員研修を通して、意識の向上が図れた。 ②コロナ禍前に近い形での開催となった桔梗祭において、環境委員が中心となり、ゴミ処理や清掃に積極的に取り組み、校内美化に努めた。 ③適切な業務分担など協働を意識した業務遂行を図った。 | ①事故不祥事の未然防止に向けて職員が主体的に行動できるよう意識啓発を進める。 ②環境委員を中心とした活動を推進し生徒に美化に対する意識をより高めると共に、ゴミ処理や清掃に積極的に取り組み、校内美化に努める。 ③会議時間の短縮など、時間を効率的に活用した業務遂行を務める。 | ・災害時に補助的避難所として開放された際に、地域と学校が担う役割について明確にし、迅速な対応に向けた整理が必要である。 | ①安心安全な学校づくりを目指し生徒の指導を行った。 ②文化祭では美化委員会を通じて分別や清掃に取り組んだ。また、放課後、自主的に清掃する有志の生徒など、自主的な生徒の活動により校内環境が改善された。 | ①事故不祥事の未然防止に向けて職員が主体的に行動できるよう意識啓発を進める。 ②生徒が安全に安心して学べるよう、引き続き学習環境の整備など考慮し計画的な遂行に努める。 ③働き方改革については引き続き意識を持って遂行する。 |

